

科目名	音楽療法総論Ⅱ	形態	講義	開講期	秋学期
担当教員	長江 朱夏	単位	2	年次	1

＝授業科目の目標＝

音楽療法には、その名の通り「音楽」というアート（芸術）が深く関わる。しかし、芸術と言っても、“美”や“質の良さ”を極めるという観点とは異なる次元で人の感性と創造性に働きかけたり、「表現する」ことを支え手伝ったりするものである。セラピーの場には、身体、精神、発達など様々な側面においてサポートを必要とする方々がやって来る。音楽療法士は、彼らの障がいや病状、行動特性を知り、専門家として関係を築き、そして音楽を意図的に用いてセラピーを行う。様々なニーズに応えるために、音楽療法がどのように関わりその力を発揮できるかを、オーディオや映像の臨床例を交えながら紹介していく。

なお、講義内容や進行順序は場合により部分的に変更することがある。

＝履修の条件と学習の方法＝

講義形式を基本とした授業内容だが、体験ワーク（音楽体験やロールプレイ）やグループディスカッションも含まれる為、意欲的に参加できること。

講義を欠席する際は、授業開始までに担当教員へ連絡を入れること。欠席した場合、授業内容を他の受講生に確認し、配布資料などがある場合は、それを教員のところまで取りに来ること。

＝授業内容＝

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義内容と目標）の確認。「音楽療法の様々なアプローチ」
- 2回 歴史から見る音楽療法 「人と音楽—民族と宗教」、「楽譜から開放された音楽」
- 3回 表現 そして コミュニケーション
- 4回 音楽療法の様々な場面
- 5回 障害を理解する① 知的発達障害
- 6回 障害を理解する② 知的発達障害
- 7回 障害を理解する③ 自閉症スペクトラム障害
- 8回 機能回復としての音楽療法 発達障害
- 9回 音楽と人について 音楽することの効果、意義は？
- 10回 聴覚障害、聴覚機能について
- 11回 脳性まひ、筋ジストロフィー
- 12回 音楽療法と音楽教育
- 13回 グループ音楽療法①
- 14回 グループ音楽療法②
- 15回 まとめ

＝成績評価の方法と評価の基準＝

出席点（出席5点、欠席0点）で総合成績の30%とする。

提出物

- ・ 課題（2題）内容と提出期限は授業内にて案内。提出期限厳守。各10点
- ・ レポート（2回）内容と提出期限は授業内にて案内。提出期限厳守。各5点

期末テストの成績は総合点の40%

＝テキスト（必携）＝

- ① 書籍名：音楽療法入門Ⅰ
著者名：デイビス他（著）、栗林文雄（訳）
出版社：一麦出版社
- ② 書籍名：音楽療法入門Ⅱ
著者名：デイビス他（著）、栗林文雄（監訳）
出版社：一麦出版社

その他、必要に応じて適宜授業にて配布する。